

# 東三河の くらしと自治

「住民と自治」2018年11月号付録  
会報：「東三河くらしと自治」  
2018年10月10日 第69号  
発行：東三河くらしと自治研究所  
発行人：宮入興一（代表世話人）  
住所：豊橋市中柴町100-1  
東三河労連内：0532-54-2011

## 第18回サイエンスカフェ

# 地域づくりと人づくり

～“葉っぱビジネス”で有名な徳島県上勝町事例から  
豊橋の民話・妖怪まで～

講師 内浦 有美さん

株式会社うちうら代表取締役(ぼったり堂)



9月8日(土) アイプラザ豊橋において、内浦有美さんを講師にお招きし、地域づくりと人づくりをテーマに第18回サイエンスカフェを開催しました(参加者18名)。

6年半の間、徳島県上勝町に住みながら上勝町「いろどり」や三重県伊賀市「モクモク手づくりファーム」など4つの地域と連携しながらプロデュースした「地域ビジネス×IUJ ターン人材育成・起業・定住支援」の経験や豊橋の「民話・妖怪」のお話をいただきました。

一部、二部構成で2時間30分にわたり、豊富な資料スライドとテレビ放映されたDVDの視聴等で大変わかりやすく、おもしろく、そして地域づくりと人づくりについて考えさせられるお話でした。

### 地域ビジネスとは・・・

「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスな手法で解決する事業」の総称です。いま地域では、さまざまな分野で課題が多様化し、その解決が求められています。その中で、地域ビジネスの手法が全国的に注目されるようになっていきます。

## プロデューサーを育てる仕事に・・・

内浦さんは、企業勤務を経て、研究者を目指して高齢者の生き方の研究をしようと、高齢者が輝いている町、上勝町を調査するなかで、地元の方から一緒に地域課題を解決してほしいと要請されてプロデューサーを育てる仕事をされていました。良いプロデューサーとして育つポイントは三つ。一つは、地域の課題を見抜けるかどうか。二つは、ハッとするような地域の宝を見抜けるかどうか。三つは、地域特有なものを見抜けるかどうか。それにプラスして全国からその地域のファンを呼び込める魅力的な人がいるかどうか。これがそろると地域ビジネスが転がり始めること、プロデューサーを育てる仕事は大変な仕事であると実感を含めてお話しされました(研修生、6年間で100人中1割残るかどうかだった)。

## 急峻な上勝町がコンビニの棚に見えた・・・

葉っぱビジネスで有名となった上勝町(2018年7月現在、人口1,574人)。カンブリア宮殿(テレビ愛知)で放映されたDVDを上映した後、内浦さんは、「急峻な過疎地」が、なぜ、全国から毎年3,000~4,000人、外国(34カ国)からも視察者が訪れるようになったのか、その理由について詳しくお話しされました。上勝町は標高600メートルの所もあれば役場や温泉等は標高200メートル位で400メートルも標高差がある急峻な所で温度差も数度違います。朝夕これだけ違うと、色々な商品を作ることができます。同じ商品でも時期をずらして収穫できるので。横石知二さん(株式会社いろどり代表)が、この急峻な山々を見たとき、「コンビニストアの棚」に見えたそうです。今では約300種類の商品を出荷できるまでになっています。山間地など地方で新規の商品開発することは難しいけれどもプロデューサーの目を持った人が地域資源を見ると既存の商品とビジネス、新規の商品とビジネスの中間が見えてくるのです。素晴らしい横石知二さんというプロデューサーがいたからこそ、上勝町に新しい産業を生み出すことが出来たのです(年商約3億円)。



## 地域と人づくりで大事なこと・・・

地域と人づくりについて次の3つのことが大事です。一つは、地域づくりにリーダーは必要ありません。昔は俺についてこいでよかったけれど、今はプロデューサー型人材が地域では求められています。地域の人一人ひとりが主役、その人

たちが輝くように手助けする人、それがプロデューサー型人材です。つまり、舞台を作る黒子さんのことです。二つは、地域で求められる若者人材の役割です。地域特有なものはなかなか地域にいる人は見つけにくい。でも外から来た人とか、若い人の感性は地域の魅力を発見することが出来ます。それを発信することも出来ます。地域には魅力が詰まっています。それを徹底的にほめること、それだけで地域は生き生きしてきます。三つ目は、仕組みが必要です。地域住民の人たちが協力する仕組みを作ることです。そのためにはしっかりとビジネスとして成り立つことが大事です。

### 豊橋の民話・「豊橋妖怪百物語」・・・

休憩後、二部に入り、内浦さんは、生まれ育った豊橋に帰ってきてから始められた「豊橋の民話・豊橋妖怪」も大変興味あるお話で豊かな資料と内容は、面白く、豊橋の特有な地域資源について考えさせられました。内浦さんは、2012年に「ぼったり堂」を開堂しています。パン屋さんの協力を得て 16 種類のキツネや河童のかわいい妖怪パンを 16 種類つくり、「豊橋妖怪パン祭り」を行っています。この企画は産業化までには至らなかったものの、すごく売れて経済効果は大変大きかったそうです。また、豊橋には 230～250 位の民話伝説がありますが、そのうち 100 の物語を本にしています（『豊橋妖怪百物語』、ぼったり堂・内浦有美著）。豊橋の民話には、そこで暮らしてきた人々の生活、文化、知恵等がギュッと詰まっています。それを子供たちや若い人に伝えるつなぎ目になりたいとの思いから始められたとお話しされました。

（お話を事務局で要約し、掲載しました）

### 参加者の感想文から・・・

- ・ 地域経済が壊れ、外部からの特定企業が設置されると、語り継ぐ生活文化がどこかへ行ってしまう恐れがあります。どうなっていくか心配です。
- ・ 地域づくり、活性化、再生にとって核となる人材とはいかなる特性をもった人なのか？
- ・ 今回のカフェで、地域再興を特別な専門的スキルを習得した「キャリアパーソン」に依存、託すのではなく、地域の特性を新たな感性で把握し、それを地域の人々の共通の新しい「物」とするキーパーソンをつくり出すことを知り、実に愉快的な視点を与えられた。
- ・ IOT 化の進む社会においてネットの一端につながりその機構の中で考え、行動する人間となることが運命化される近未来を考える時、新しい人間のつながり、地域社会の在り方を考える 1 つのポイントとも思えた。
- ・ 非常に面白かった。豊橋にこのような伝承があるのを知らなかった。



## 第 1 回地域産業部会を開催しました

地域産業部会責任者 牧野幸雄（研究所副代表）

東三河くらしと自治研究所では、今年から 3 年かけて、市民による東三河白書を作ることを決めています。このため、「社会保障」、「まちづくり」、「農業」などの部会を設けて取り組むことにしています。

地域産業部会は、それらの部会の一つですが、他の部会に先駆けて、9 月 24 日、第 1 回目を開催しました。会場はアイプラザ豊橋 301 号室、参加者は 10 名でした。はじめに、牧野から「経済センサスでみる東三河経済」と題して報告を行い、その後、参加者から沢山の質問や意見をいただきました。

ここでは、その一部を紹介します。

### ○ 報告の内容（まとめの部分）

- ・事業所数、従業者数を見る限り、東三河経済は全体として縮小傾向にある。しかし、東三河のなかでも差は大きく、北設楽の衰退が顕著。

- ・東三河経済のなかで、豊橋市と豊川市の占めるウェートが大きい。かつ両市は衰退といえるほどではなく緩やかに減少ないし横ばいといった程度。

とくに、豊川市は中規模以上の事業所では事業所数、従業者数ともに増加傾向がみられる。

- ・しかし、全体として共通するのは、小規模事業の減少が激しいこと。これをそのまま放置していてよいのかということが課題。

- ・業種別では、全ての市町村で卸・小売業の事業所数の減少が見られるが、豊橋市と豊川市では従業者数が増加している。

小売業では、インターネット販売などの「無店舗販売」が増加している。

- ・製造業は、豊橋市と豊川市では従業者数が横ばいであるが、他の市町村は減少傾向。東三河は製造業の占める割合が高いので、製造業の動向の影響を受けやすい。

なかでも田原市は「輸送用機械器具製造業」の従業者数が常に 1 万人を超えており、自動車産業の変化の影響を大きく受ける。トヨタの動向に影響されない自律した経済をどう作っていくかが課題になる。

- ・市町村の内部でも、市街地と周辺部などでちがいがあがる。経済センサスは、町丁別データもあるので、比較は可能。蒲郡市では、従業者数が三河湾沿いの沿岸部は減少傾向、旧市街地は横ばいとちがいがみられた。

○ 出された質問、意見（一部を紹介）

Q 東三河の企業の海外進出状況はわからないか。

A 愛知大学中産研の『東三河の経済と社会 第8輯』で、愛知大学の先生が、愛知県の調査をもとに、新聞記事や各社ホームページで補足して書いている。現時点の状況はそれでわかる。

Q 従業者数のうち常勤・非常勤の数はわからないか？

A 経済センサスには常勤・非常勤の数も出ている。常勤が減り非常勤が増えていくといったことがわかる。

Q 東三河広域経済連合会は東三河経済についてどのように考えているのだろうか？

Q 地元スーパーの話をきけたらいいと思う。どんな考えで経営しているのか、地域のことを考えてくれているのか、といったこと。

Q 東栄町で売上げが伸びているのは、ミネラルファンデーションの事業所ができたからではないか。

Q 開廃業について、資本金規模別のデータが示されているが、業種別の開廃業データはないか？

A 経済センサスにあると思うが、市町村別まであるかどうかはわからない。人口30万人以上の市はあると思う。

Q 今後の研究をどう進めていこうと考えているか。

A 政策を考えるとところまで進めたい。政策は、個々の中小企業の競争力の向上と地域内経済循環の二つが大事。企業の成長はそれに終わらず、地域の企業に発注し、地域内産業連関を強める役割を果たす。そういうリード役を果たす企業支援が必要と考える。コネクターループ企業といわれる企業への支援。

Q そういう企業に補助金を出すということは考えられるか？

A ありうると思う。設備投資補助の申請があれば、有識者を含めた審査会で審査し、地域内企業に発注するところを優先するというように。

Q 地域内経済循環というが、可能だろうか、何から始めればいいのか。

A 林業とエネルギーは取り組みやすいし、現に北海道の下川町などで取り組まれている。

間伐材のチップで地域暖房に生かすとか。地域内経済循環の取り組み例は、農林業とエネルギーで言われることが多いが、やはり製造業の取り組みが大事。

Q 地域内経済循環が大事なのはそのとおり。そのためにも産業連関の現状を把握することが必要。愛知県内の市町村で産業連関表を作っているところはあるだろうか？

Q インターネットなどの無店舗販売の事業所数、従業者数が増加しているとのことだが、アマゾンのような大手の事業所が増えているということ？

Q 蒲郡には、ネット貸衣装店ができています。

A 大手ではなく、そういうところが増えているということだと思います。

○ 以上のような議論の後、今後の進め方について話し合いました。

その結果、今後、隔月で開催していくこと、次回は 11 月に「商業」をテーマにすること、3 回目以降はその都度話し合っ決めていくことを申し合わせました。

「第 2 回地域産業部会」は、下記の日時で決定致しました。

会員の皆さま、ふるってご参加下さい。

日時：2018 年 11 月 17 日（土）午後 2 時～午後 4 時

場所：アイプラザ豊橋 3 階 307 会議室

内容：「東三河の商業」（仮題）

講師：駒木 伸比古 先生（愛知大学地域政策学部教授）

近藤 暁夫 先生（愛知大学文学部准教授）

---

## 会費納入のお願い

※ゆうちょ銀行引き落としの手続きをされています会員の皆さまへ

「会費」の引落しは、10 月 25 日です。2018 年 10 月～2019 年 3 月までの半年分です。宜しくお願い致します。

※現金支払いの方へ 9 月に振込み用紙が東海研からお手元に郵送されております。

振込みが未だの方は、お早めにお願致します。